

第6学年総合的な学習の時間活動案【合同授業】

公開授業Ⅰ

場所 ○○中学校体育館

1. 単元名「フューチャーラーニング～未来予想図を描こう～」

2. 指導観

○ こんな子どもだから

これまでに子どもたちは、フューチャーラーニングの意味を知り、自分の夢や興味のある仕事を調べてきた。その中で、調べたことや考えたことをグループ内で伝え合ってきている。また、中学校や高校に行き、自分達の未来を見学した。そこでこの単元に入る前に、これまでの学習の振り返りをしてみた。

振り返りの内容	はい	普通	いいえ
①総合的な学習の時間は楽しいですか。	77%	20%	3%
②学習に応じて調べ方や質問を考えたりできましたか。	47%	41%	12%
③学習に積極的に取り組みましたか。	62%	38%	0%
④将来のことを考えることができましたか。	76%	18%	6%
⑤フューチャーラーニングの意欲が強くなりましたか。	65%	26%	9%

①の結果から、ほとんどの子どもたちがフューチャーラーニングの意味が分かり、意欲を持って活動していたと思われる。②は調べ方や考え方である。どう調べたらよいか分からなかったり、これからの見通しを持ってなかったりすることが課題として挙げられる。③は実際に質問をしたり、伝え合いの場で交流をしたりする時の意欲である。子どもたちの様子を見てみると、自分の考えをどう伝えたらよいか分からず、自信を持ってない様子が見えたりした。また、話したり聞いたりする必要感を、強く持つようにできなかったことも課題として挙げられる。④と⑤からは、子どもたちが将来のことを考えたにもかかわらず、これからの活動に対する意欲が高くないことが分かる。子どもたちの振り返りを読むと、未来を身近に感じられなかったり、夢を調べたことで満足していたりする様子が見える。

○ このような学習で

本単元は、自分の夢や興味のある職業に就くには、どのような道筋を通ればよいか、どんな努力をすればよいかを考え、今後に生かそうとすることをねらいとしている。

具体的には、①前単元で自分の夢や興味のある職業を調べたことをふまえて、これから何を考えればよいかつかむこと②インターネットや本で調べたり、インタビューをしたりすることで、未来の道筋を考えること③調べたことを整理し、国語科の学習を生かして、自分の考えを中学生に伝えることができること④調べたことや発表会で考えたことをもとに、自分の今後に生かせることを考えることである。

未来を身近に感じられなかったり、夢を調べたことで満足していたりする子どもたちにとって、夢や興味のある職業までの道筋を調べることは、目標を持って未来を考えられる上で意義深い。

本単元の小中連携教育の視点

この学習は中学校3年生の職場体験の学習に関連しており、キャリア教育という点で小中につながりがある。子どもたちが、実際に様々な職業の厳しさや喜びを知ったり、目の前の未来である中学生からアドバイスをもらったりすることで、未来に対する見通しをもって中学校に進める上で意義深いと考える。

○ このような支援で

指導にあたっては、子どもたちの実態から「課題を解決する力の育成」「表現する力の育成」「未来を探る必然性を持つことができること」の3点に重点を置く。

まず、夢や興味のある職業に就くまでの道筋を調べる必然性を、プレゼンテーション等で持つようにし、意欲を高める。調べる過程では、企業等にインタビューしたり、資格を取るために必要な学習を調べたりできるようにヒントカード等を準備する。未来への道筋が明らかになるにつれ、課題を解決できた自信につながると考える。

表現する力の育成については、国語科の学習と関連させ、効果的なポスターセッションをできるようにする。また、小中合同で「未来発表会」を行うことで、子どもたちが話す必要感を持つことができるようになる。その際、実際に様々な職業の厳しさや喜びを知ったり、目前の未来である中学生からアドバイスをもらったりすることで、未来に対する見通しも持てるようにしたい。

3. 目標

- 自分の夢や興味のある職業がどんなことをしているのか調べたことをふまえ、これから自分の希望を実現するには、何を考えればよいのかつかむことができる。
- インターネットや本を用いたり、インタビュー等をしたりすることで、自分の夢や興味のある職業に就くまでの道筋を調べることができる。
- 国語科の学習を生かして自分の考えを中学生に伝えることができる。
- 調べたことや発表会で考えたことをもとに、自分の今後に生かせることを考えることができる。

4. 学習計画（15時間）

学習活動と内容	支援・指導の工夫と留意点（※他教科との関連）
<p>1. 前単元を振り返り、課題をつかむ。② <u>自分の今後に生かせることを見つけよう。</u> ○ 夢や興味のある職業に就くまでの道筋を調べること。 ○ 中学生と未来発表会を行い、調べたことをもとにアドバイスをもらったり、現実の職場の苦労や喜びを考えること。</p> <p>2. 夢や興味のある職業を決め、課題別にグループをつくる。①</p> <p>3. グループで話し合い、計画を立てて調べる。⑥ ○ 資格をとるために、どんな力が必要か調べること。 ○ 大学の目指す学部の試験にどんな教科があるか調べること。 ○ 企業等に電話でインタビューをし、どんな力が必要か聞くこと。</p> <p>4. 夢や興味のある職業に就くまでの道筋をまとめ、中学生に質問することを考える。③ ○ 現在から、夢や興味のある職業に就くまでのフローチャートを作る。 ○ 調べたことをもとに、目前の未来である中学校で質問したいことを考える。</p> <p>5. 国語で学習したことを生かし、発表の練習をする。① ○ 国語科で学習した、ポスターセッションのポイントを生かすこと。</p> <p>6. 小中合同の未来発表会で、中学生と発表交流をする。（6の○本時）①</p> <p>7. 学習したことをまとめ、今後に生かせることを考える。①</p>	<p>○ プレゼンテーション等を使い、前単元までの流れ、今後の課題をつかめるようにしておく。</p> <p>○ 夢や興味のある職業が同じ子どもをグループにし、インタビュー等が円滑に進むようにする。</p> <p>○ 大学の入試システムや資格の取り方は様々なので、ヒントカードを作り、インターネット等で何をどう調べればよいのか明確にしておく。</p> <p>○ 企業等にインタビューをする時は、失礼がないように、質問の仕方の指導をする。</p> <p>○ 「自分は医者になりたいが、医学部の入試には数学がある。数学が少し苦手なので中学校ではどんなことをがんばればいいですか。」等、中学生に分かるような質問を考えるように伝える。</p> <p>○ 子どもたちの質問をまとめ、事前に中学生に読んでもらい、アドバイスをもらえるようにする。</p> <p>※ ポスターセッションでの伝え方を、国語科につなげて学ぶ。</p> <p>○ 国語科と関連させるポスターセッションのポイント</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・考えを先に理由を後にして話す。 ・資料を指し示しながら話す。 ・聞き手の様子をうかがいながら話す。 ・言葉づかいを考えながら話す。 </div> <p>○ 事前に中学生がどんな職業について話すのか知らせ、興味を持てるブースに行くように伝える。</p> <p>○ プリントで自己評価をできるようにし自分の高まりを実感できるようにする。</p>

5. 本時の目標

- 未来発表会で小学生・中学生の互いの考えを交流し、自分の今後に生かせることを考えることができる。
- 国語科で学習したポスターセッションのポイントを生かし、自分の調べたことや考えたことを効果的に伝えることができる。

6. 本時の支援・指導にあたって

本時の仮説

未来発表会で、以下のような手だてをとれば、中学生との交流の中で自分の今後に生かせることを考えることができるであろう。

- ・国語科で学習したポスターセッションのポイントを生かして発表することで、意図が明確になり、中学生から適切なアドバイスがもらえる。
- ・中学生の発表を聞く場をつくることで、様々な職種の仕事内容や苦勞、喜びが分かり、職場の現実を知ることができる。

前時までに子どもたちは、本単元の学習の見通しを持ち、夢や興味のある職業を決め、資格を取るための試験内容を調べたり、企業等にインタビューしたりしてきた。そして夢や興味のある職業に就くまでの道筋や必要な力をまとめ、現在の未来である中学生に質問したいことを考えてきている。

しかし、中学生と未来発表会をして、今後に生かせることを考えるという見通しは持っているものの、調べたこと等をどう伝えたらよいか分からない、という声から子どもたちから挙がった。そこで国語科で音声言語单元「わたしの未来予想図を伝えよう」を開発した。ポスターセッションでの伝え方を、以下のようなポイントで理解できるようにし、練習してきた。

○ポスターセッションのポイント

- ・考えを先に、理由を後に話す。
- ・資料を指し示しながら話す。(点差し・丸差し・線差し)
- ・聞き手の様子をうかがいながら話す。
(間をとりながら・聞き手の様子を見て例等を入れながら)
- ・言葉づかいを考えながら話す。(聞き手を意識して)

そこで本時は、国語科で学習したポスターセッションのポイントを生かして、未来発表会で小学生・中学生の互いの考えを交流し、自分の今後に生かせることを考えることをねらいとしている。

そのために、まず国語科で学習したことを生かし、ポスターセッション形式で中学生に自分の夢や興味のある仕事に就くまでの道筋や必要な力、そして中学生に質問したいことを発表する。国語科の学習を関連させることで、中学生に発表の意図が伝わり、子どもたちが知りたいことをアドバイスしてもらおうことができると考える。また、事前に中学生に小学生の質問事項を知らせ、適切な回答が得られるようにしておく。

次に中学生から職場体験の発表を聞く。子どもたちは夢や興味のある仕事を調べたものの、職場の苦勞等現実の厳しさや喜びには触れていない。実際に職場を体験し、仕事内容や苦勞等を聞くことは、自分の今後を考える上で意義深いと考える。またここでは、事前に子どもたちに、中学生がどのブースでどんな職場について発表するのか知らせるようにする。それをもとにブースを選び、興味のある職業についての発表を聞けるようにしたい。

なお本時の発表会は、小学生・中学生混合で6ブースに分かれて発表する。中学生が司会となり進行するが、交流がなかなか進まないブースがあれば支援する。

本時の小中連携教育の視点

本時は中学校3年生と交流することにより、実際に様々な職業の厳しさや喜びを知ったり、中学校に向けてのアドバイスをもらったりできる。このことは、今まで調べてきたこととつなげ、未来に対する見通しをもって中学校に進める上で意義深いと考える。

7. 準備

- (教師) プロジェクター、資料を貼る掲示板、ブース用の机
- (児童) 発表用資料、画板、学習プリント、指示棒

8. 本時の展開

学習活動と内容	支援・指導の工夫と留意点
<p>1. 本時のめあてを確認する。</p> <div data-bbox="175 331 774 430" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>未来発表会で、自分に生かしたいことを考えよう。</p> </div> <p>○ 代表児が、本時のめあてをふまえて中学生にメッセージを送る。</p> <p>2. 自分の調べたことや考えたことを、中学生に発表し、交流する。</p> <p>(1) 夢や興味のある職業に就くまでの道筋と中学生に質問したいことを発表する。</p> <p>○ 国語科で学習したポスターセッションのポイントを生かすこと。 →</p> <p>(2) 中学生から質問の答えを聞く。</p> <div data-bbox="191 1019 774 1281" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>小学生から中学生への発表の流れ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ブースにいる5～6人の小学生が、ポスターセッション形式で順番に発表する。 2. 小学生が資料の裏に書いてある質問を確認のために見せ、中学生に答えてもらう。 </div> <p>3. 中学生の職場体験の発表を聞き、質問や感想を返す。</p> <p>○ 中学生は職場体験での仕事内容や苦労したこと等を話すので、それに対しての質問や感想を返すこと。</p> <div data-bbox="191 1541 774 1742" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>中学生から小学生への発表の流れ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ブースにいる中学生1～3グループが発表をする。 2. 小学生が最後に質問や感想を伝える。 </div> <p>4. 本時の学習をまとめる。</p> <p>○ 本時の未来発表会を通して、今後に生かせそうなことをまとめる。</p> <p>○ 代表児が、本時のまとめを中学生に伝える。</p>	<p>○ 未来発表会を行う意味は、前時までにつかんでいるので、映像でめあてを映し出し確認できるようにする。</p> <p>○ 司会は中学生が担当し、各ブースで交流が円滑に進むようにする。</p> <p>○ 本時で国語科と関連させるポスターセッションのポイント</p> <div data-bbox="805 772 1404 907" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・考えを先に、理由は後にして話す。 ・資料を指し示しながら話す。 ・聞き手の様子をうかがいながら話す。 ・言葉づかいを考えながら話す。 </div> <p>○ 中学生が質問に答えられるように、事前に子どもたちの質問を中学生に伝えておく。</p> <p>○ 交流がなかなか進まないブースがあれば、教師が支援する。</p> <p>○ 質問に答えてもらったら、返事を返すように伝えておく。</p> <p>○ 子どもに、どのブースでどの職業体験の発表があるのか事前に知らせ、興味のあるブースに本時の初めから行くように伝えておく。</p> <p>○ 本時の学習を、めあてに沿ってまとめることを伝える。</p>